

037

大雨から大切な命を守る、逃げ遅れゼロに向けて住民避難を後押しする防災啓発

取組主体

一般社団法人中部地域づくり協会

従業員数

87 人

想定災害

全般

実施地域

中部地方
(愛知県他)

- 過去の大規模災害の調査・研究をもとに、社会の変化を捉えた様々な普及啓発ツールを制作。中部地方を中心に、1人でも多くの人が円滑に避難できるよう、あらゆる年齢のすべての人に伝わる防災啓発を目指す。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

防災啓発冊子で過去の災害を学びその教訓を今に活かす

- 一般社団法人中部地域づくり協会は、中部地方に甚大な被害を及ぼした伊勢湾台風から 50 年の節目を契機に、安全で安心な社会を構築する技術の調査・研究を目的とし、地域づくり技術研究所を平成 21 年 4 月に設置した。
- 中部地方は平成 12 年の東海豪雨以来、大規模な災害に見舞われていない。このため、災害が発生した場合には災害の経験が少ないことに加え、コロナ禍の影響もあって避難が遅れ、高齢者を中心に深刻な被害に遭う可能性がある。同協会の地域づくり技術研究所では、コロナ禍での新しい生活様式も踏まえ、幅広い年齢層や防災への関心の薄い人たちにも伝わる、「大雨から大切な命を守る」ための、アナログとデジタルの両面を活用した防災啓発活動に精力的に取り組んでいる。
- 同協会では、過去の災害から学び、その教訓を今に活かし備えることを目的に、中部地域で発生した豪雨災害を取りまとめた約 60 ページの防災啓発冊子「自然に学び、自然に備える」を平成 21 年から毎年発行している。この冊子を見れば、中部地域の災害の歴史や特徴が理解できる構成となっている。コロナ禍の影響で防災訓練やイベント等が中止になっており、直接配布する機会が減少したことから、出水期前に電子冊子としてホームページで公開し、自宅や学校で学べるよう工夫している。



防災啓発冊子

幅広い年齢層を対象とした多様な防災啓発コンテンツ

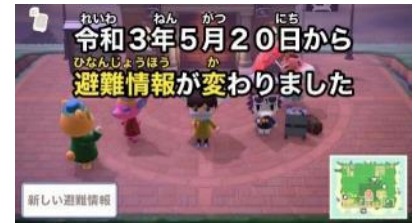
- 同協会では VR を活用した浸水疑似体験を実施している。自宅での逃げ遅れによる浸水被害を疑似体験するもので、シナリオに沿って行動を選択し、ゲーム感覚でリアルな体験ができる若者向けのシナリオモードと、操作を伴わず浸水を体験できる高齢者向けの浸水体感モードの 2 種類のコンテンツを制作し、幅広い年齢層に対応できるようにしている。水害未経験者が水害の恐ろしさを体感できるよう、防災講座・訓練・イベントとあわせて VR 体験を実施することで、より効果的・効率的な防災啓発となっている。
- 東京オリンピックで話題となったピクトグラムをヒントに、大雨への事前の備えと早期避難を促す「大雨にソナエルピクト」を制作し、誰でも自由に活用できるよう、同協会ホームページで公開している。図柄は 8 種類用意されており、個別の使用も可能であるが、活用の促進を図るため、チェック欄や避難場所を記載できるスペースを配置したチェックリストとしても公開されている。制作にあたっては、若い感性を取り入れる目的で、高校生の意見も聴取した。



VR 画面と浸水疑似体験の様子

国土強靱化

- 小中学生に向けた啓発としては、任天堂株式会社が提供している人気ゲームソフト「あつまれ どうぶつの森」(あつ森)を活用した、避難について学べる動画を作成している。令和3年5月に避難情報に関するガイドラインが改定されたことも踏まえ、改めて防災に関心の薄い若年層に水害時の早期避難に関心を持ってもらうことを目的としている。動画共有サイトでの公開もされており、学校教育等においてタブレットを使用した学習等に活用することも期待される。



「あつ森」を活用した防災啓発

- 同協会ではさらに、DX 推進の取組として、バーチャル空間で展示物を自由に見て回ることができる「デジタル展示館」を制作し、ホームページ及びスマートフォンアプリで公開している。本取組では、昭和のレトロな空間で、自然災害のパネル展示や液化状実験等の防災啓発動画の上映を見ることができる。中部地方で昭和30年代を中心に発生した自然災害について、当時の白黒写真を自身の手でカラー写真に変換して閲覧できるほか、近年発生した類似災害の写真も掲載されており、中部地方で今後同様の災害が起こることを、自分事として捉えてもらう効果が期待される。



大雨にソナエルピクト



デジタル展示館

2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- 同協会は、毎年発生した災害の情報を加えて防災啓発冊子を改訂するとともに、大規模災害の節目を捉え、毎年特集ページを設け変化を持たせている。より多くの人に伝わる機会が増え、防災知識継承の観点からも有効である。
- また、イベントや防災講座等を通じて、地域とのつながりを深めている。防災学習支援として、令和2年より土木系の高等学校を中心に防災講座を行っており、令和2年度に4校12講座、令和3年度は6校15講座を開講した。また、高校生より若年層である小中学生向けにも防災啓発の拡充を図っている。

3 現状の課題・今後の展開等

- 同協会はさらなる啓発と、障がいのある人や外国人にも伝わるダイバーシティ推進の取組が必要であると認識している。対面形式での啓発と組み合わせ、非接触型のSNSも多面的にして利用するなど多様な媒体を有効に活用し、特に防災に関心の薄い人に向けて、さらに多くの人へ伝わる活動を展開していく考えである。

4 周囲の声

- これまで災害を経験したことがないので、VRを体験して水害の怖さがわかった。地域のお年寄りや子どもたちの避難補助や、近隣の人に呼びかけて早期避難をしたい。(VR浸水疑似体験者)

担当者の声

- 若年層が楽しく避難に関する学習ができ、記憶に残るピクトグラム・あつ森を活用した防災啓発や、高齢者に好評の防災啓発冊子、また、2種類のコンテンツにより、幅広い年齢層にも対応できるVRを活用した浸水疑似体験や、災害の白黒写真をカラー化して閲覧できるデジタル展示館等、様々な防災啓発ツールを活用し、防災訓練・イベントの出展、防災講座等を実施しています。今後も社会の変化やニーズを捉え、様々な多くの人に伝わる取組を展開していきます。

問合せ先

一般社団法人中部地域づくり協会 法人番号：8180005005127
TEL：052-871-9380 FAX：052-871-9382
E-Mail：kenkyujyo@ckk.or.jp

サイト URL



動画

